

表 5 - 7 (1) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点（浅海域が存在する海域）

環境特性 項目		影響要因 環境要素		工事の実施		
				水環境		大気環境
				水質	底質	騒音・振動
				濁り・堆積物	底質	底質からの溶出
○浅海域が存在する ○海水域である ○外海に面している ○存在する類型：砂浜、砂泥底域	想定される主な影響		・濁りの発生に伴う懸濁物の堆積及び底質の変化による汚濁物質の溶出 →生物生息環境の変化、生物種及び個体数の変化 →生態系の機能(育成場、索餌場等)の変化			
	調査	主な把握事項	・浅海域に依存する生物の生育・生息状況 ・対象海域の濁りの分布、変動状況 ・工事による濁りの発生状況、拡散状況			
	・予測に関する留意点	留意点等	・バググラントの濁りの状況により、影響の度合いは異なる。 ・工事により発生する濁り発生位置、発生時期等により影響の度合いが異なる。 ・海底工事等を行う際、騒音・振動の発生状況によっては、鳥類・魚類への影響を考慮する場合がある。			

注) 1. 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。

2. 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。

表5 - 7 (2) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点
(浅海域が存在する海域)

環境特性	影響要因		土地又は工作物の存在及び供用											
	項目		水環境									その他の環境		大気環境
			水質				底質		その他			地形及び地質		騒音・振動
			水質	濁り・堆積物	水温	塩分	底質	底質からの溶出	波浪	流動	干出時間	地形・基質	砂の移動 漂砂	騒音・振動
○浅海域が存在する ○海水域である ○外海に面している ○存在する類型：砂浜、砂泥底域	想定される主な影響		・水温、塩分、水質、濁りの変化、懸濁物の堆積、波浪・流動の変化、漂砂の変化 →生物の生育環境変化 →生態系の機能(育成場、索餌場等)の変化 ・生息基盤の変化による干出時間の変化 →生物生育空間の変化 →生態系の機能(育成場、索餌場等)の変化 ・工作物等の存在による生物生息空間の減少 →生物生息空間の減少 →生態系の機能(育成場、索餌場等)の減少											
	調査・予測に関する留意点	主な把握事項	・対象海域の流動、波浪、水温、塩分、水質、流入負荷量及び施設からの排水による負荷量の状況・漂砂の状況・生物の生息状況及び生息基盤等の生息環境の状況・生態系の構造と機能の特性・埋立等による改変区域											
		留意点等	・この環境特性の生態系の機能の特徴としては、「場(育成場、索餌場等)」「環境形成・維持(酸素の供給)」、「物質循環」、「緩衝(汚濁物質の補足)」であると考えられる。これらの機能に関連し、評価が可能な生物種(群集)の選定が重要となる。 ・対象海域の汚濁状況、汚濁機能により影響の度合いは異なる。 ・供用時の騒音・振動の発生状況によっては、鳥類・魚類への影響を考慮する場合がある。 ・温排水の場合は、対象海域の水温の分布・変動特性、取排水の位置により影響の範囲が異なる。また、水温の上昇及び取水の連行による生物の高温障害、忌避を考慮する。 ・短期的及び中長期的に影響する項目及び範囲を考慮する。											

注) 1. 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。

2. 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。